



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第136号 2025年10月24日 発行



シンポジウム

令和7年6月29日(日)、金沢医科大学病院にて第33回石川県作業療法学会を開催した。テーマは「作業療法の専門性と魅力 ～人々の生活を構築し、夢を叶える支援～」とした。作業療法士は、対象者の身体的・精神的機能の回復を図るだけでなく、その人らしい生活を再構築し、人生の目標や夢を実現するための支援を担う専門職である。今回の学会では、その役割をより包括的に捉えるために、「専門的な支援と連携」「生涯教育(学修)」「業務の効率化」という三つの視点から、シンポジウム、教育セミナー、特別演題を企画した。参加者は128名(現地参加97名)であり、1日という限られた時間ではあったが、会場は終始活気にあふれ、充実した学びの場となった。

特別シンポジウムでは、「幼少期に対麻痺となり社会人になるまでの専門的支援と連携」をテーマに、山田博子氏、古矢康子氏(理学療法士)、寺田佳世氏、進藤浩美氏の4名から、それぞれの立場での課題や実践的支援について講演していただいた。16年間に渡る長期の支援の中で本人や家族の生活や希望を見据えた多職種連携の重要性が示された。豊富な経験をもとに予後を見通した支援は非常に説得力のあるものであった。多くの質問があり、活発な討論が行わ

第33回石川県作業療法学会を終えて

第33回石川県作業療法学会 学会長 千田 茂
(石川県立中央病院)

れた。

特別企画では、桂靖典氏より登録作業療法士や認定作業療法士など新しい生涯学修制度について分かりやすく解説いただいた。また、教育部による個別相談会も開催され、16名の相談者が熱心にキャリア形成について意見交換されており、学習意欲の高さが伺えた。

指定演題では、iPhoneや送迎システムなどICT・IoTを活用した業務効率化の実践が報告された。業務の効率化によって、対象者とより多くの時間を共有できる可能性が示唆され、医療・介護DXの広がりを実感させられた。一般演題は18題発表され、若手からベテランまで幅広い発表があり、世代を超えた意見交換が行われたことも大きな成果であった。

本学会を通じて、作業療法の専門性と魅力を再認識するとともに、支援の可能性や新たな挑戦への手がかかりを得ることが出来た。来年度は能登地域での学会開催が予定されている。地域の特色を生かした新たな学びや交流が期待されるところである。次回も多くの方が参加し、発表や討議を通じて石川県の作業療法の発展につながることを期待する。



運営スタッフ



個別相談会

学会に参加して

芳珠記念病院 富永 麻織

今回、初めて演者として参加し、かなり緊張もしたが院内の先輩方からアドバイスをいただき完成させた資料を無事に発表することができた。発表事例に対する意見や、様々な臨床分野の事例に対する介入の一例を聞いたことが貴重な体験となった。多様なアプローチや考え方を知ることで新たな視点をもつことができ勉強意欲向上にもつながった。また、学会特別シンポジウムでは、幼少期に麻痺となった事例に対して医療から就労支援までの介入を聞き、多職種連携の重要性や事例や家族の思いに寄り添った支援を考える難しさを実感した。そして作業療法の奥深さと魅力を再発見し、「OTはすごい」と感じる事ができた。今後、この学会で学んだことを臨床で生かしていきたいと考える。



公立能登総合病院 松原加奈子

今年度のテーマは『作業療法の専門性と魅力～人々の生活を構築し夢を叶える支援～』であった。特別シンポジウムでは1人の患者様の4歳～20歳まで、急性期から生活期までを追った内容であった。成長とともに現れる課題に、作業療法士・理学療法士が乗り越えていく姿勢に感銘を受けた。学会の中で何度か『作業療法ってすごい』という言葉が聞かれた。この言葉がこれからも繰り返し聴かれる・想われるような作業療法を日々提供できるよう常務に精進したい。



学会長奨励賞受賞者から一言

公立穴水総合病院 大畑 敬一郎

介護保険利用を拒む仮設住宅入居・独居男性への退院支援

この度は過分な賞を頂き、感激と感謝でいっぱいです。震災の爪痕深く残る中、被災者の生活再建と支援側の現状を知って頂きたい、この演題を論じました。また、奥能登のOT魂も発信したく、県学会の舞台に立たせて頂きました。今後も驕らず愚直に、地域の方々と向き合っていきます。この度は有難うございました。

恵寿総合病院 岡原 くるみ 早期復職を望む失語症・注意障害の症例への介入 ～自己の能力への気づきに対するフィードバックの工夫～

この度は学会長奨励賞を頂き誠に光栄に思います。今回の発表で、気づきの程度に合わせたフィードバックの工夫や職場に対して復職後の症状・それに対する対策の説明などの大切さを学びました。質疑応答では、復職後のOTの関わりが重要であるとアドバイスをいただき、さらに知識を深めることができました。今後は、学会で得られた知識を最大限活用し、良い作業療法を提供できるように日々努力していきます。



(左から)大畑氏、岡原氏、千田学会長

生涯学修制度について

教育部担当理事 桂 靖典
(木島病院)

今年度から新卒の作業療法士を対象に生涯学修制度が開始している。今回はその詳細を説明する。

まず、前期研修はe-ラーニングと自施設内外の実地研修から成る。e-ラーニングは3つの領域で合計70コンテンツ(各コンテンツ30分程度)あり内容も非常に充実している。受講する順番の指定はなく、各自好きなテーマから受講することができる。自施設内の実践研修は、「自己チェックリスト」を用いた自己チェックと、「目標自己管理シート」を用いた職場の上司や先輩作業療法士による指導、助言、確認である。「自己チェックリスト」は前期・後期研修を通じて使用し、「目標自己管理シート」は毎年作成することが望ましい。自施設外の実地研修は研修や学会参加などである。前期研修は「必要な指導のもと作業療法を実践することができる」を到達目標としている。e-ラーニングを全て受講し、自施設内外の実地経験を経て、概ね2年間で目標に到達し、登録作業療法士に修了確認をもらうことで、前期研修を修了することが出来る。

次に、後期研修は講義と自施設内の実地研修から成る。後期研修の講義は現行の現職者選択研修と新しい現職者共通研修である。自施設内の実地研修は「目標自己管理シート」を用いて自身で作成し、必要

に応じて上司や先輩作業療法士に助言、確認を求める。「自己チェックリスト」は上司や先輩作業療法士と共に実地経験の進捗状況の把握等に用いて頂きたい。後期研修は「独力で作業療法を実践することができ、上級者の助言・指導を得て後輩の指導ができる」を到達目標としている。現行の現職者選択研修と新しい現職者共通研修を受講し、自施設内で自己管理のもと実地経験を経て後期研修を修了することが出来る。

新卒の作業療法士の皆さんは上記の前期研修と後期研修を修了し、並行してMTDLP基礎研修と臨床実習指導者講習会を受講し、是非とも登録作業療法士を目指して頂きたい。生涯学修制度は確かに複雑だが、個人のメリットとしては、自身のスキルアップが図れ、キャリアアップが明確になると思う。社会的なメリットとしては、質の高い作業療法士が安定的に供給され、国民が安全で質の高い医療・福祉サービスを受けられるようになる。これは超高齢社会を迎える日本において特に重要であると思う。生涯学修制度は、作業療法士が専門職として成長し続けるための羅針盤であり、作業療法の質を維持・向上させるための重要な取り組みと言える。

登録作業療法士制度 概要



*前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
*OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

日本作業療法士協会ホームページから抜粋



シリーズ 能登半島地震 活動報告③

災害対策委員会

令和6年能登半島地震におけるJRATの活動検証・研修会の報告

災害対策委員会 担当理事 合歓垣 紗耶香・市川 翔悟
(芳珠記念病院) (公立河北中央病院)

令和6年能登半島地震発災後、石川県と石川JRATが協定を締結し、本災害における活動の成果として、同年6月28日修正の防災基本計画においてJRATの名が明記された。災害時のリハビリテーション支援がより迅速かつ体系的に展開されることが期待されており、平時からの組織強化が求められる。

7月20日には、金沢市で厚生労働省老人保健課長や石川県健康福祉部長、医師会長らも出席しJRATの活動検証・研修会が開催された。発災直後から復興リハビリテーションまでの取り組みを振り返り、平時から

の派遣体制の整備や、地域・他団体との連携の重要性が再確認された。当会からは1.5次避難所でのアクティビティセンターの効果、避難所支援における専門職の役割などが報告された。

当会としては、今年度も災害リハビリテーションに資するOT人材の育成とともに、平時からOTが地域とのつながりを持ち、自助互助を強化できるよう地域リハビリテーションへの参画を進めていく方針である。会員の皆様にはご協力をいただきたい。

第17回 中高生と高齢者の交流会 珠洲市で初開催

事業部 理事 高多 真裕美
(金沢脳神経外科病院)

令和3年に始動した「中高生と高齢者の交流会」は、令和6年度には能登半島地震被災者を対象に、能登町や金沢市(広域避難者)で開催してきた。第17回目となる今回は、令和7年9月20日、珠洲市での初開催が実現した。開催にあたり、石川県立飯田高等学校、珠洲市総合病院、珠洲ささえ愛センター(珠洲市社会福祉協議会)の協力を得て準備を整えた。当日は高齢者11名と高校生11名、スタッフ8名(珠洲市総合病院より作業療法士2名、言語聴覚士1名)が参加し、同

高等学校の教頭先生も応援してくださった。プログラムは脳活プログラムやオンライン体験を中心に、和やかな会話を通じて世代を超えた交流が深まった。高校生からは、「いろいろな話を聞けて楽しかった」「コミュニケーションの取り方が役立ちそう」との感想が寄せられた。次回は10月18日に志賀町での開催を予定している。今後も県士会は、高齢者と若者が主体となり、地域の活性化につながる支援を継続していきたい。



マネジメント研修会開催報告

石川県作業療法士会 副会長 堀江 翔
(金沢大学附属病院)

8月31日(日)、2025年度のマネジメント研修会を金沢大学附属病院とオンラインのハイブリッド開催で実施した。参加者は会場が14名、オンラインが21名で計35名であった。内容は、合歓垣副会長よりOTの診療報酬返戻事例の紹介とJRAT報告、また珠洲市総合病院の新出氏、石川県立中央病院の椿原氏より、それぞれ珠洲、輪島の震災・豪雨災害からの経過と現状について報告いただいた。加藤理事からは、市町村地域支援事業について石川県の現状を報告いただき、石川県

リハビリテーションセンターの寺田氏からは、介護生産性向上の取り組みについて、県の支援体制の紹介も含めてお話いただいた。最後には業務効率化について座談会を行い、改善したい希望はあるが進まない現状について語られた。今後の診療や管理業務に対し非常に有益な内容であったと感じ、各施設で直接話し合うことで施設間のアドバイスなどに繋げることができた。未参加の方も次年度は是非とも参加いただきたい。



座談会の様子

今年も開催します！リハビリテーション・スポーツフェス2025

企画部担当理事 種本 美雪
(専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)

今年もリハビリテーション・スポーツフェス2025を開催致します！

昨年は個人競技のべ552名(こども部門2名、成人部門10名、シルバー部門207名、ゴールド部門337名)、団体競技は4名(シニア部門1チーム)と、とても多くの方に参加いただいた。本大会は本会独自で開催しており、障害を持たれた方や外出が少なくなった方、身体を動かしたいな、という方に「活動できる場」「参加で

きる場」として、活躍できる場の提供を目的としている。種目は個人競技3種目(ルール変更あります)とペア競技1種目(新競技)を企画した。1人でもみんなでも、いつでもどこでも参加・エントリー可能。是非、家族や仲間たちで各競技に参加頂き、皆さんで楽しい時間を過ごして頂きたい。詳細は右記の二次元コードより開催要項などを確認いただきたい。エントリー期間は令和7年10月20日(月)～11月7日(金) 24時まで。



エントリー用
二次元コード



開催要項、各競技ルール、
途中結果閲覧用二次元コード

一会員の小さな工夫を会員同士で共有し、 当事者の生活を変える大きな力としましょう！ ～生活行為工夫情報事業、第5回コンテストについて～

福祉機器部 担当理事 東 ひとみ
(石川中央保健福祉センター 福祉相談部)

当会は、令和3年度より、日本OT協会が実施する、生活行為の課題解決に向けた工夫情報等を集積・提供することを目的とした本事業に参加している。本事業は、会員が福祉用具相談支援システム(以下システム)へ登録すると、生活行為の課題を解決した工夫情報が閲覧できるようになっており、現在、他県の一部も含めた100事例以上が閲覧できる。まずはシステムに登録し、様々な工夫情報から日々の業務に役立ててほしい。

また、当会では、「生活行為工夫情報コンテスト」を開催中であり、今年度で第5回目となる。令和5年度から、事例投稿が日本OT協会生涯教育制度の士会裁量ポイント(2ポイント)の対象となっている。過去の学会や事例検討会等で発表した事例も投稿可能なため、経験年数や領域を問わず多くの投稿をお待ちしている。詳細は当会ホームページで確認いただきたい。



令和7年度 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会(石川県講習会) およびアドバンス研修会について

石川県作業療法教育協議会 種本 美雪
(専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)

1. 本講習会について

今年度は2026年1月24日(土)・25(日)にてオンラインで開催する。本研修会は作業療法士免許取得後、実務経験4年以上の方から受講可能である。学生の臨床教育に携わる方は実習の種類を問わず是非受講いただきたい。(詳細は決まり次第、当会HP等にて案内する)。また上記日程が合わない方は、他OT県士会や全国リハビリテーション学校協会主催においても開催されており申し込みが可能である。各団体HPにて確認いただきたい。

2. アドバンスコース研修会開催(告知)

学生の臨床実習指導は変化しており、学生教育に必要な知識は常に学んでいく必要がある。今年度も学生への指導技術を研鑽するため研修会を企画している。内容は「画像診断関連(CT、MRI、PET、SPECTなど)」「リハビリテーションと栄養」について、オンライン開催にて企画している。是非、多くの指導者に受講いただきスキルアップに繋げてほしい(詳細は決まり次第、当会HP等にて案内する)。

能登支部

恵寿総合病院 北谷 渉

6月の第1回能登支部事例検討会では2事例の報告があった。排尿ケアにOTが介入することで在宅復帰ができた報告とビジョントレーニングを用いることで、活動性の拡大を図ることができた報告があり、OTによる多面的な介入の重要性についてやり取りが行われた。また、施設見学もあったためかここ数年間では一番の参加数となった。今年度は、事例検討会(10月10日、2月7日)、MTDLP事例検討会(11月28日)を予定している。施設見学とセットにすることで、震災からの復興状況を共有し、OT同士の顔の見える関係性を築いていきたい。皆様の参加をお待ちしている。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

8月3日に開催された事例検討会では大腿骨頸部骨折を受傷し、靴下の着脱が困難となった症例へのアプローチにより腰部・右股関節痛が低下しリーチ範囲が拡大し靴下の脱ぎ履きが可能になった報告について建設的な意見のやり取りが行われた。その後に行われた交流会では飲食を伴いながら日頃の業務に関する話題や趣味や息抜きなどのワークライフバランスについてリラックスした雰囲気の中で話をする事が出来た。次回はMTDLP事例検討会を12月3日に予定している。こちらでも報告・参加ともぜひ検討していただきたい。

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

第1回事例検討会(6月4日)は、石川県済生会金沢病院にて開催した。9施設から31名が参加し、5事例の報告と「調理動作の評価と練習」をテーマにミニ相談コーナーを実施した。精神科病院や他地域からの参加もいただき、各施設での最近の状況や課題について情報交換を行った。冷たいスイーツをいただきながら、普段は交流が少ない方とも交流を深めることができた有意義な90分であった。次回の事例検討会は11月19日にWeb開催の予定である。生涯教育制度の改正に伴い事例報告希望者が増えているため、お早めに申込みいただければと思う。

金沢東支部

金沢大学附属病院 仁木 裕也

6月20日に開催された事例検討会では2例の発表が行われ、岩手県からオンラインでの参加・発表もあった。例年、第1回目の発表は少なく、今年度も参加者はやや少なめだったが、その分ディスカッションの時間を十分に確保でき、建設的な意見交換がなされた。

また、恒例のミニレクチャーでは、金沢大学附属病院の堀江 翔氏による「脳画像の診かた」に関する講義があり、参加者から大きな反響があった。次回は10月24日に木島病院で、現地開催での事例検討会を予定している。これまで金沢大学附属病院での開催が中心であったが、木島病院での開催となるため、普段とは異なる方々の参加や発表も非常に楽しみである。是非多くの会員の皆様にご参加いただきたい。

◆◆◆令和7年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第12回総会 議事録◆◆◆

1. 日時：令和7年5月24日(土) 15:20～16:20 場所：KKRホテル金沢鳳凰A
2. 出席理事：東川、麦井、米田、桂、合歓垣、種本、永井、中森、東、酒野、越田、加藤、高多、菊池、鈴木、堀江(以上16名)
欠席理事：村井、坂下 出席監事：後出氏、進藤氏 議長：仁木氏(金大附属病院) 副議長：千田氏(県立中央病院)
書記：濱岸(石川県作業療法士会) 議事録署名人：吉田氏(城北病院) 山本氏(金沢脳神経外科病院)を任命
議決権のある会員数：822名 出席者数：583名(うち出席33名、委任状328名、書面議決書提出者数222名)
【審議事項】〈第1号議案〉令和6年度事業報告について東川会長より報告があった。 **承認**
〈第2号議案〉令和6年度収支決算について米田副会長兼財務担当理事より報告があった。その後後出監事より令和7年4月9日に実施した令和7年度収支決算における監査方法及びその内容と監査意見の報告がされた。 **承認**
〈第3号議案〉令和7年度事業計画について東川会長より説明があった。 **承認**
〈第4号議案〉令和7年度予算について米田副会長兼財務担当理事より説明があった。 **承認**
〈第5号議案〉役員選挙報告について、小浦選挙管理委員長より、定款第30条に基づき、5月24日の定時社員総会に理事全員が任期満了となるため、役員選挙について報告があった。理事16名(重任13名、新任3名) 監事2名(重任2名)の立候補があった。定款第25条に基づき、理事及び監事は立候補者全員が選任された。 **承認**

◆◆◆令和7年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第2回理事会 議事録◆◆◆

1. 日時：令和7年5月24日(土) 16時30分～17時10分 場所：KKRホテル金沢やよいの間
2. 出席理事：米田、桂、堀江、合歓垣、菊池、東、中森、永井、酒野、高多、種本、鈴木、加藤、五十嵐、吉田、市川(理事16名)、監事：後出氏、進藤氏、書記：山本、濱岸
3. 議事【議決事項】
〈第1号議案〉役員の選任について 定款第25条2項に基づき、代表理事(会長)に米田貢氏、副会長に桂靖典氏、合歓垣紗耶香氏、堀江翔氏を選定した。 **承認**
〈第2号議案〉新入会員承認について 米田会長から新入会員42名と報告。 **承認**
〈第3号議案〉会費免除について 条件に該当した30名を会費免除とする。随時、申請内容を確認して承認とする。 **承認**
〈第4号議案〉公印管理規定について 米田会長から会費システムの変更に伴い、「公印管理規程」の整備について説明があった。5/24から施行する。 **承認**
〈第5号議案〉その他 堀江副会長から第34回石川県作業療法学会長に永井理事を推薦。 **承認**
合歓垣副会長から各部・委員会の担当理事について、事業規模に応じて理事の人数を割り振るよう提案があった。米田会長と各理事が調整する。 **承認**

◆◆◆令和7年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第2回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和7年7月14日(月) 19時～21時30分 西泉事務所および Zoom使用によるWeb会議
2. 出席：米田、桂、堀江、合歓垣、東、菊池、高多、加藤(以上会場)、中森、永井、酒野、鈴木、五十嵐、吉田、市川(理事15名) 仁木、長原、西村、北谷(支部長4名) (以上Zoom) 欠席理事：種本 書記：山本(Zoom)、濱岸(会場)
3. 議事【審議事項】
《執行部》8/31マネジメント研修会開催。内容・検討事項 **承認**
《金沢西支部》百万石踊り流しについて来年以降の参加取りやめについて **承認**
《管理運営教育部》交流会の部員への支払いについて **日当費で対応** 交流会の運営について **継続審議**
《学部部》第34回県学会の内容・会場・日程について **継続審議**
《財務部》提出書類書式の書式変更について **承認**
《広報部》県士会ニュースの発行回数について、今年度は4回発行、来年度から年3回を検討承認 内容について **継続審議**
県士会ニュース136号割符案について **承認**
《MTDLP推進委員会》県士会HPにMTDLP指導者の氏名・所属施設名を掲載について **承認**
《運転と地域移動支援》LINEグループ「石川県移動支援の輪」の継続使用について **承認**
《学生会員》運営方法について **継続審議**

◆◆◆令和7年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第3回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和7年9月1日(水) 19時～21時 西泉事務所およびZoomによるWEB会議
2. 出席：米田、桂、堀江、合歓垣、菊池、東(以上会場)、中森、永井、酒野、高多、種本、鈴木、加藤、五十嵐、吉田、市川(理事16名) 長原、仁木、北谷、西村(支部長4名) (以上Zoom) 書記：山本、濱岸(Zoom)
3. 議事【審議事項】
《執行部》組織図改編について **継続審議**
《財務部》新書式の作成および提出手順について。中間決算期の予算の再提出について、大幅な予算変更の場合のみ提出。中間決算および修正予算案は財務部で作成。 **承認**
《広報部》COTOTO第12号 割付案について **承認** 発行は3月中旬を目指す。 **承認**
県士会ニュースの発行回数の変更について 来年度から年3回発行。 **承認** ニュース内容について **継続審議**
《企画部》リハフェスの大会要項、競技の見直し、開催期間を早める。賞品の変更。配送方法の変更。後援依頼は8か所。 **承認**

インフォメーション 研修会案内・県士会活動

第2回事例検討会
日時 11月19日(水)
金沢西支部

MTDLP事例検討会
日時 11月28日(金)
能登支部

合同研修会
日時 11月29日(土)
精神医療部・発達障害支援部

MTDLP事例検討会
日時 12月3日(水)
加賀支部

作業療法実践セミナー
日時 12月6日(土)
身障・老年医療部

住宅改修研修会
日時 12月14日(日)午前
福祉機器部

大学院で学んで 保健・医療・福祉、教育の リハビリテーション関連領域の リーダーを目指しませんか

多分野融合型の教育・研究体制
働きながら学べるオンライン遠隔講義や
昼夜開講制度、長期履修制度
授業料や奨学金制度など
経済的負担にも配慮



総合リハビリテーション学研究科
総合リハビリテーション学専攻（修士課程）

詳細は本学HPを
ご確認ください

〒924-8511
石川県白山市笠間町1200番地
電話 (076) 276-4400 (代)



あらゆる人々が輝く社会を

実現するために

サンウェルズは

進化と変化を続けます。



全国に続々展開中！

パーキンソン病専門ホーム

PDハウス

1 専門医監修の
リハビリプログラム



2 脳神経内科医による
訪問診療



3 お看取りまで対応
24時間の訪問看護体制



北陸エリア開設一覧 ※2025年5月末時点

■ 石川県

PD ハウス白山
2018.06 OPEN

PD ハウス藤江
2023.04 OPEN

PD ハウス小坂
2018.12 OPEN

PD ハウス戸板
2023.04 OPEN

■ 富山県

PD ハウス秋吉
2022.10 OPEN

■ 新潟県

PD ハウス新潟紫竹山
2024.10 OPEN

リニューアルしたHPで
最新情報を随時発信中！



株式会社
サンウェルズ

ご入居・お問い合わせ窓口 | 受付時間 9:00-17:00

0120-540-367



賛助会員名簿（順不同）

A会員 社会医療法人財団董仙会 学校法人 金城学園	医療法人積仁会 金沢医科大学病院 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 金沢赤十字病院 公立穴水総合病院 公立宇出津総合病院 社会福祉法人篤豊会 公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院 珠洲市総合病院 医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 医療法人社団 竜山会 金沢古府記念病院 医療法人社団持木会 柳田温泉病院 医療法人社団 光仁会 木島病院 医療法人社団橘会整形外科米澤病院 宇野酸素株式会社 株式会社金沢義肢製作所 株式会社トミキライフケア エア・ウォーター・リンク株式会社 北陸支店 セントラルメディカル株式会社 株式会社 メディベック 株式会社 サンウェルズ
B会員 学校法人 センチュリー・カレッジ 社会福祉法人徳充会 青山彩光苑 特定医療法人社団勝木会 医療法人社団和宏会	
C会員 医療法人社団澄鈴会栗津神経サナトリウム 社会福祉法人恩賜財団済生会石川県済生会金沢病院 石川県リハビリテーションセンター 医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院 医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院 医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院 医療法人社団浅ノ川千木病院 医療法人社団映寿会 医療法人社団さくら会森田病院 医療法人社団慈豊会 医療法人社団丹生会 医療法人社団扇寿会 医療法人社団長久会 医療法人社団千木福久会	D会員 有限会社 さわやか金沢



県士会Web QRコード▶



会員数

会員数 854名(令和7年9月現在) 賛助会員 42施設・企業
認定作業療法士 44名(9月現在) 専門作業療法士 4名(9月現在)

編集後記

最近、Eriksonの発達段階について学生に指導する機会があった。国家試験では臨床心理学分野で頻出問題である。米国発達心理学者Eriksonが、「人は、生涯どの時期においても発達し、クリアすべき課題とクリアするための危機が存在し、危機を乗り越えた時に得られる力がある」と定義した。私は壮年期に該当し、発達課題は「生殖性」、危機課題は「停滞」、得られる力は「世話(配慮)」である。生殖性とは、「自分が持つ知識や技術を、次の世代に伝えていくこと」である。腑に落ちるなーとしみじみ…。自分や身近な人のことだけで手一杯になっている日々。次世代や社会に対して自分がさらにどう関わっていくか再考する時期だ。お時間があれば、自分の年代がErikson発達段階のどこに該当するか確認してみてほしい。これからの人生がより充実したものになるヒントが隠されているのではないかと思う。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行
編集担当：酒野直樹、五十嵐満哉、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、
網谷郁美、北野早紀、竹中朋也、仲佐東、上野玲子、小川正人、宮田真由美、竹村健太郎、増田司、
南湊太
発 行 所：公益社団法人 石川県作業療法士会
〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678
発 行 人：米田貢 印刷：ヨシダ印刷株式会社